

第4回 岐阜県農畜水産業活性化協議会 開催結果（要旨）

1 日時：平成28年2月22日（月） 11時00分～12時05分

2 場所：県庁4階 特別会議室

3 出席者

（委員等）

荒井 聡	岐阜県農政審議会	
井戸 敬二	岐阜県町村会	
大坪 光樹	生活協同組合コープぎふ	
大西 隆	岐阜県農業法人協会	
梶田 泰久	岐阜県農林水産物輸出促進協議会	
北野 茂樹	岐阜県食品産業協議会	
櫻井 宏	岐阜県農業協同組合中央会	
酒向 貞夫	岐阜県漁業協同組合連合会	
鷺見 郁雄	岐阜県農業会議	
朽本 弘明	岐阜県指導農業士連絡協議会	
早川 捷也	（一社）岐阜県畜産協会	
林 宏優	岐阜県市長会	
土屋 厚子	岐阜県J A女性連絡協議会	
丹羽 義典	（公財）岐阜県産業経済振興センター	
和仁 松男	岐阜県農業参入法人連絡協議会	以上15名

（国）

田辺 義貴 東海農政局長

（県）

古田 肇 知事
神門 純一 T P P 対策統括監
若宮 克行 農政部長

4 議事

- (1) T P P に関する今後の農業施策について
 - ・農林水産分野におけるT P P 対策について
 - ・新たな「ぎふ農業・農村基本計画」について
 - ・T P P 協定に関する本県農業への影響について
 - ・今後の重点的取組みについて
 - ・平成28年度農政部当初予算の概要について
- (2) 意見交換

5 委員発言：別紙のとおり

第4回岐阜県農畜水産業活性化協議会発言記録

平成28年2月22日（月）

11時00分～12時05分

県庁4階 特別会議室

〔意見交換〕

○県農協中央会 櫻井 宏 会長

- ・ T P P の影響に関しては、前提が色々ある中で、米について影響はほとんどないとのことだが、平成30年以降の生産調整の廃止の方が、影響は大きいのではないかと考えている。T P P 対策と米政策が一体となった経営安定対策が必要。県も支援いただければありがたい。
- ・ 輸出については、知事に飛騨牛の推進に力を入れていただいている。生産者では輸出の手続きが分かりにくい。国も簡便な制度を作るといっているが、輸出に関する指導をしていただくと良いと考えている。
- ・ 国のT P P 政策大綱について、今後しっかりとした制度を作っていただきたい。
- ・ 平成30年からの政策が、米にどのように影響するか。強い農業づくりには取り組まなければならないが、県ごとで産地間競争が生まれそうな気がする。強い農業をつくるための支援をいただけたらと思う。

○県指導農業士連絡協議会 朽本 弘明 会長

- ・ 皆さんからいただいた指摘がクリアできれば、岐阜県の農業が明るく変わる。
- ・ 担い手は、ある程度確保されつつあると思うが、育った後のことが重要。研修生が育った後に、行き届かないところが出てくる。もう一步踏み込んでいかないといけない。J A や県の普及指導の中でも、もっとやっていただくとありがたい。特にJ A の力は大きい。イチゴ、柿はしっかりしているが、まだ少し不安が残る。もう少し踏み込んだ連携を。
- ・ 移住・定住も大事。新規就農者の面接をしたが、1 / 4 くらいは定住（住まい）がない人が就農を目指している。それも踏み込んでやっていかななくてはならない。定住まで対策をやっていただくとありがたい。
- ・ 指導農業士の負担低減を。これから農業の拡大には、指導農業士の指導力のウェイトが高くなる。何年か先には指導農業士の研修生受入れを軽減しないと、組織として辛いのでは。
- ・ 国も指導農業士の位置づけをもう少し踏み込んだ形にしてほしい。そうでないと、指導農業士制度の継続も難しくなるのでは。

○県農業法人協会 大西 隆 会長

- ・ T P P に関して会員に話を聞くと、皆さん対策は取っている。T P P も何年も前から言われていることであるし、法人の経営者として当然のこと。皆さん大きな影響はないのではないかと知っている。
- ・ 全く不安がないとは言えないが、6次産業化に取り組むなり、対策は進んでいる。

○県市長会 林 宏優 山県市長

- ・ T P P の影響については、農家の方が不安に思っている。
- ・ 新たな担い手がいる畜産農家の設備投資の支援について、設備投資をされるタイミングは農家によって違うと思う。今回、クラスター事業として、かなり大きな金額を予算としてみていただいているが、新たな基金を設置ということになるのか。
- ・ 今の農家が辞めると、次の担い手ができないので、今の農家がタイミングよく補助を受けられるような制度をお願いしたい。

○県農業会議 鷲見 郁雄 会長

- ・ T P P 試算について、「県は全体で9～16億の減少。米についてはほとんど影響が無い」とのことだが、新聞報道などでは、平成25年3月の試算では、3兆円ほどの生産額の減少が試算されている。今回はそれより少ない金額で済むとあり、大学の先生の試算では1.3兆円という数字もある。農業者にはどれが本当か分からない。もう少ししっかりした試算を出していただけるとありがたい。
- ・ 5年、10年先まで、食料自給率や生産をしっかり守るという強い発信をしていただきたい。
- ・ ウルグアイラウンドのときには、政府は6兆円の予算を組んだ。この使い道は農産物を運ぶための飛行場や、温泉開発などもあり、今いろいろと批判されている。
- ・ 今回の対策は、農業者がしっかり農業をやれるような予算であってほしい。

○県食品産業協議会 北野 茂樹 会長

- ・ 加工食品を作っている協議会のため、農業のことはよく分からないが、T P P に対応した強い農業づくりということで、色々な施策をやっておられ感心している。
- ・ NHKのニュースで本巢の美濃娘が出ていた。いいものなら、どんどんマスコミで報道される。
- ・ 知事も一生懸命に輸出をやっていただいているが、我々加工食品の生産者も岐阜県のいい材料を使い、素晴らしい製品を作って海外へ輸出できるような体制にもっていききたい。

○県農林水産物輸出促進協議会 梶田 泰久 会長代理（全農副本部長）

- ・ 新しい「ぎふ農業・農村基本計画」の中でも、方向性として、海外での販路拡大を出していただきありがとうございます。
- ・ 農業の生産基盤の整備や担い手対策をしっかり行った上で、販売先の一つとして輸出は非常に大事である。岐阜のブランドの認知度を高め、観光にも大きな影響を与える。
- ・ 輸出についても、国内他産地との競争が激しくなっている。県の力も借りて販路拡大していきたいので、さらなる予算について、検討いただけたらありがたい。

○生活協同組合コープぎふ、大坪 光樹 常務理事

- ・ 消費者の立場では、食の安全に最も関心がある。とりわけ、輸入農産物に関しては、消費者にまだ理解されていない部分が多い。

- ・輸入農畜産物の安全性については、実際は確保されていると思うが、中国産加工食品のこともあり、誤解されているのも大きい。
- ・これから輸入が増えてくるのであれば、輸入食品の安全性について、しっかり情報提供をしていただきたい。
- ・消費者もきちんと学ばなくてはならない。
- ・多面的機能の維持について、農業は、多面的機能、環境、食、文化などいろいろな側面を持っているので、しっかり守っていただきたい。
- ・県内全域で事業をやっているが、中山間地域では、人口減少や買い物困難者の増加など、農業農村問題と無縁ではない。県としてもしっかり取り組んでいただきたい。

○県JA女性連絡協議会 土屋 厚子 会長

- ・輸入のものより、県産品を地元の人がしっかり消費することが大事。
- ・自分たちで作ったものを自分たちで消費して農業を守っていく。
- ・自分たちが安心して食べられるものを、自分たちで考え、値段だけで判断せず、それを消費していかなくてはいけないと、台所を守る女性として思っている。

○県農政審議会 荒井 聡 会長（座長）

- ・TPPについては、積極的な対策を各組織の方が取っている。
- ・しかしながら不安は残る。不安を取り除くための対策を、この機会に確立していく必要がある。
- ・若い生産者が20～30年農業に取り組める、若い人が不安を抱えることなく続けられる恒久的な対策が必要とされている。それが、県民の食料の安定供給・食の安全・安心にもつながっていく。

○東海農政局 田辺 義貴 局長

- ・皆さんの声を聞かせていただき、ありがとうございます。
- ・国の施策のあり方についてのご意見は、しっかりと受け止めてまいりたい。
- ・TPP対策の内容については、過去のUR対策に批判があったことを念頭に置いて、体質強化に繋がるもののみとしている。
- ・平成25年3月の試算は、即時関税撤廃、国内対策なしと仮定して計算したもので、考え方が異なる。
- ・畜産クラスター事業は、基金化して切れ目なく弾力的に運用できるよう取り組む。
- ・TPPの対策の攻めの部分と多面的機能などの守りの部分を車の両輪として、農政を進めていく
- ・農政局としても、しっかり県と連携して岐阜県農業の振興に取り組んでまいりたい。

○知事

- ・お忙しいところ、急遽このような会議にご参集いただき、ありがとうございます。
- ・TPP最終合意、国の補正予算、県の予算の組み立てがあり、この時期に皆様方の率直な意見を伺うのがいいのではないかと考えた。
- ・来週、国で「農林水産業の輸出力強化ワーキンググループ」が開催される。農林水産業の輸出競争力の強化、TPPへの対応など、岐阜県が積極的な対策に取り組んでいるということで、私にプレゼンを、という依頼があった。

- ・本日、率直に伺った意見も含めて、しっかりと対応していきたい。
- ・TPPについては、平成25年7月に交渉参加。相当出遅れた中で、今回の内容を見ると、かなり頑張ったのではないか。かつて交渉に参加した身からすると、そうとう盛り返して日本のペースを作ってこられた。「よくぞここまで」と評価しているのではないか。
- ・TPPには守る部分と攻めの部分がある。攻める部分は大いに活用していこう。
- ・岐阜県とベトナムとの交流を、という話がある。ベトナムはTPPの参加国。ベトナムへの輸出を考えると、TPP参加国の輸出は、参加していない国と比較すると、圧倒的に有利。TPPを追い風に、岐阜とベトナムとの交流を積極的にやっけていこうとしている。岐阜からの輸出、観光誘客に取り組む。
- ・攻めの部分は積極的に使っていきたい。
- ・海外に出ると、日本食のブーム。日本の食材に関する注目から、日本食、食材、器に注目が移りつつある。この流れを活用して、岐阜の持ち味をどんどんアピールしていく必要がある。
- ・TPPでは、例えばアメリカの牛肉の輸出枠が広がった。この機会に飛騨牛をそこに売り込んでいく。今年はアメリカに飛騨牛上陸。大いに活用するような姿勢で臨んでいきたい。
- ・鮎が東南アジア、ヨーロッパでうける。鮎の輸出を積極的に考えていく。
- ・トップセールスはきっかけづくり。後はビジネスをする人が、地道に取り組みを。私たちもその役に立ちたい。お互い連携を取りながら、販路拡大、そういった姿勢でいきたいと思う。
- ・日本の中の他の産地との競争、他県も非常に積極的なので、私ども大いに頑張る必要がある。
- ・TPPの影響について、一定の前提の中で、国も県も試算値を出したが、このあたりは丁寧に状況を見極めながら、想定外のことが起きれば、見直しも柔軟に行って、守りも攻めも含めて必要な対策を考えていかななくてはならない。
- ・ウルグアイラウンドの6兆円について、岐阜県にどのくらいきて、何に使ったのか、誰からも聞いたことはない。相当のお金が来ていると思うが、どこに行ったのか。こんなことをやっている意味がない。
- ・県では、TPPも含めて「強い農業づくり」ということで、重点に予算を用意した。
- ・国も補正を含めて予算を確保した。どういう戦略でどのように使ったのか、後世に残るように、意思統一をしっかりと取り組んでいく。
- ・予算について、「こういうことに使うのなら、こういったことに使ってほしい」など、意見があれば、補正もできるし、来年度以降も続く話なので、積極的な提案をいただければ。
- ・定住と就農は大事なテーマ。政策的に繋がるようなやり方を意識的に行っていききたい。大変いいヒントをいただいた。
- ・食の安全について、輸入農産物の安全性より、横流しの問題でもちきり。色々な意味でチェック体制など、根っこから見直す時期に来ている。食の安全は大前提。しっかりと取り組んでいきたい。
- ・農業農村の多面的機能の維持について、世界農業遺産を国連と議論する中で、一面的な機能だけで世界農業遺産の認定を受けたわけではない。
- ・86万人が住む流域に素晴らしい清流が残っている。なぜなのか、どういう努力を

しているのか、生物多様性もあれば、アユ漁、魚苗センター、鮎文化、食、環境保全など、色々な角度で、世界農業遺産になった。

- 多面的なアクションプランを作って、認定を受けただけでは意味がないので、岐阜県の魅力として、ブランドとしてアピールしていきたい。お知恵をいただきたい。
- 県産品の愛用についても、そういった問題意識で、岐阜駅に「THE GIFTS SHOP」を作った。岐阜県の人にまず、こんないいものがあるよ、と知ってもらい、買ってもらいたい。売り手にも買い手にも、岐阜県にどんないいものがあるか知ってもらいたい。
- 名古屋の栄にも「g. i. Foods」という岐阜の食のお店を作った。どちらも大変好調。売り上げもうまくいっている。さらに充実させていきたい。
- 「THE GIFTS SHOP」は、1月から「食」をもっと強化しようということで、岐阜の素晴らしい食を置いている。売り上げも伸びている、まず、岐阜の人に評価されないと売れない。限られたスペースだが、積極的に活用いただきたい。
- 担い手育成について、行き届かない点があるということだが、また具体的にお聞きしたい。
- 研修から就農後まで、丁寧に若い新しい担い手を育てていこうということで、毎年3百数十人の担い手を育成する体制ができつつあり、それを400人体制、5年間で2000人の農家を作ろうとしている。
- 研修から就農まで積極的に支援していく「岐阜モデル」ということで、財政的な支援も含めて惜しまない、これは人に対する支援である。一所懸命にやらせていただいている。
- 国への要望も含めてご意見いただいた。改めて来週各大臣も出席されるので、提言していきたい。
- 今後も折に触れてこの会議をやらせていただきたい。

以上